

令和8年度 平川市議会
山形県村山市「子育てスマイルプロジェクト」視察報告

「選ばれる街」の光と影：平川市 の未来を描くための戦略会議

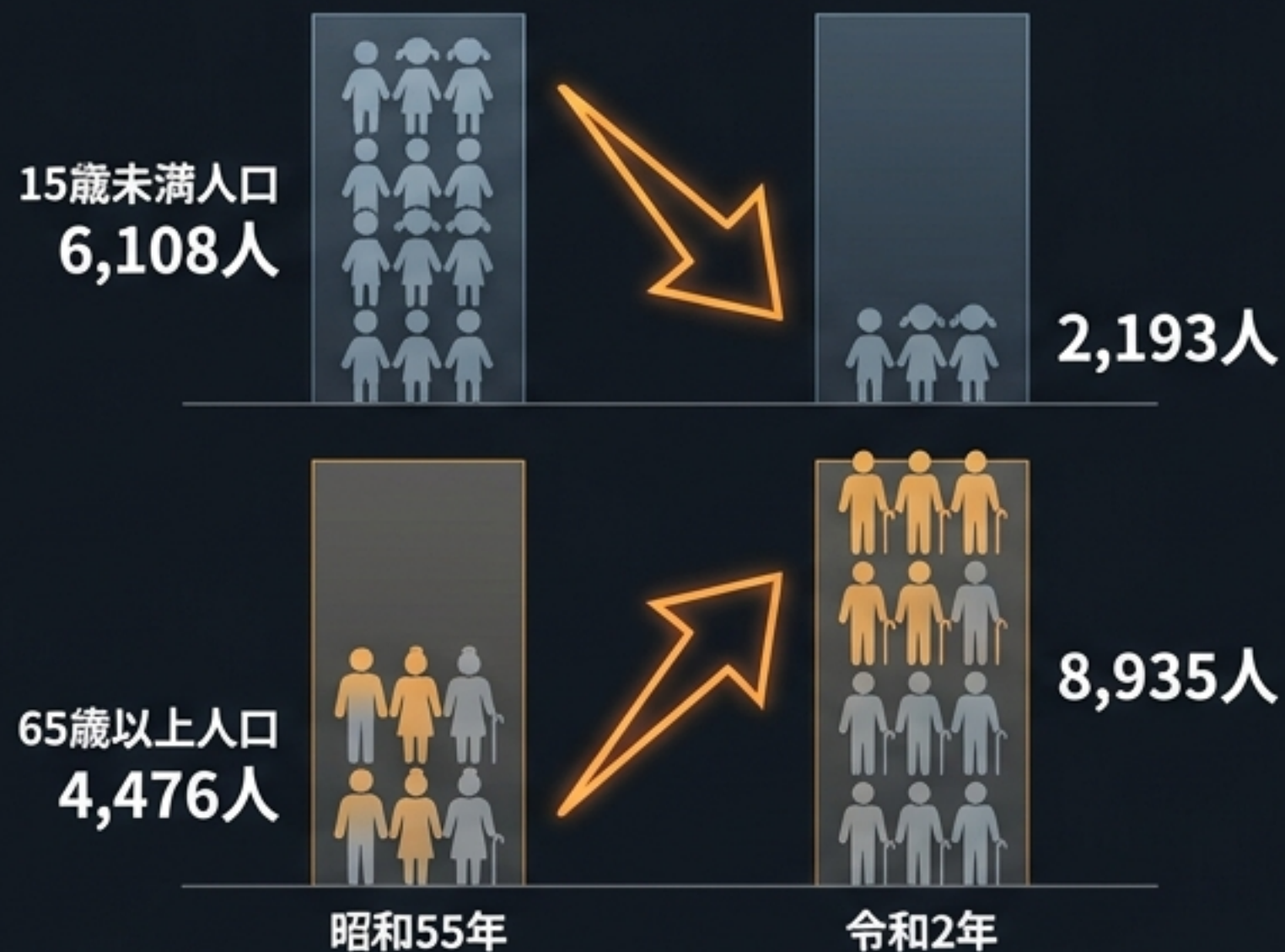
平川市議会 葛西勇人・中畑一二美

ただの視察報告ではない。私たちの街が直面する「現実」と「次の一手」の青写真。

共通の危機：急激な人口減少という冷酷な現実

村山市（人口約2万人・高齢化率42.8%）が直面する現実、平川市の未来の鏡でもあります。特に深刻なのは、次世代を担う子どもたちの急激な減少です。

Demographic Shift



The Birth Rate Plunge



村山市の挑戦:「子育てスマイルプロジェクト」

「子育てに伴う経済的不安を軽減し、
若年世代の定住を促進する」



対象

妊娠前から高校・大学進学期
までの「切れ目のない」支援



予算規模

約4億1,000万円
(一般会計181億3,000万円のうち)



実施体制

子育て支援、保健、教育、建設など
複数部署を横断する連携体制

財源のエコシステムと課題



ふるさと納税



基金



リスク要因: 好調時20億円規模から、
令和7年度は約17億円へ減少。
今後の「安定的確保」が課題に。

「点」ではなく「線」で支える。切れ目のない支援の全体像



婚活・妊娠

3～5歳児の給食費無償化、
病児・病後児保育助成、
家庭保育世帯への支援



小学校入学

中学入学時の5万円商品券支給、
中学生のピロリ菌検査・除菌治
療（将来の胃がん予防）



地域住民（約10名）による
結婚支援、不妊治療助成



保育・幼児

3～5歳児の給食費無償化、
病児・病後児保育助成、
家庭保育世帯への支援



軽量通学かばんの支給、
小2対象の歯科エックス線検査



中・高進学

中学入学時の5万円商品券支給、
中学生のピロリ菌検査・除菌治療
（将来の胃がん予防）、
高校進学支援金

ライフステージごとに途切れることなく行政が伴走することで、家庭の孤立と経済的不安を構造的に防ぐ設計。

注目施策①：子育ての「公平性」を再定義する



保育施設を利用する世帯

- 保育料軽減・給食費無償化などの行政支援

家庭で保育する世帯

- 新たな支援制度（月額5,000円）

従来の支援は「預けること」に偏りがちだった。村山市は「3歳未満児を家庭で育てる保護者」にも経済的支援を行うことで、子育て方法の選択の違いによる「負担の不公平感」を解消している。

注目施策②：小学校入学時の「常識」を覆す革命

従来



- 高価なランドセル購入（数万円の家計負担）
- 重い荷物による児童の身体的負担

村山市の解決策



- 「軽量オリジナル通学かばん」を市が全児童に支給。
- 家計の初期負担をゼロに。
- 実物視察でも「軽量で使いやすい工夫」を確認。

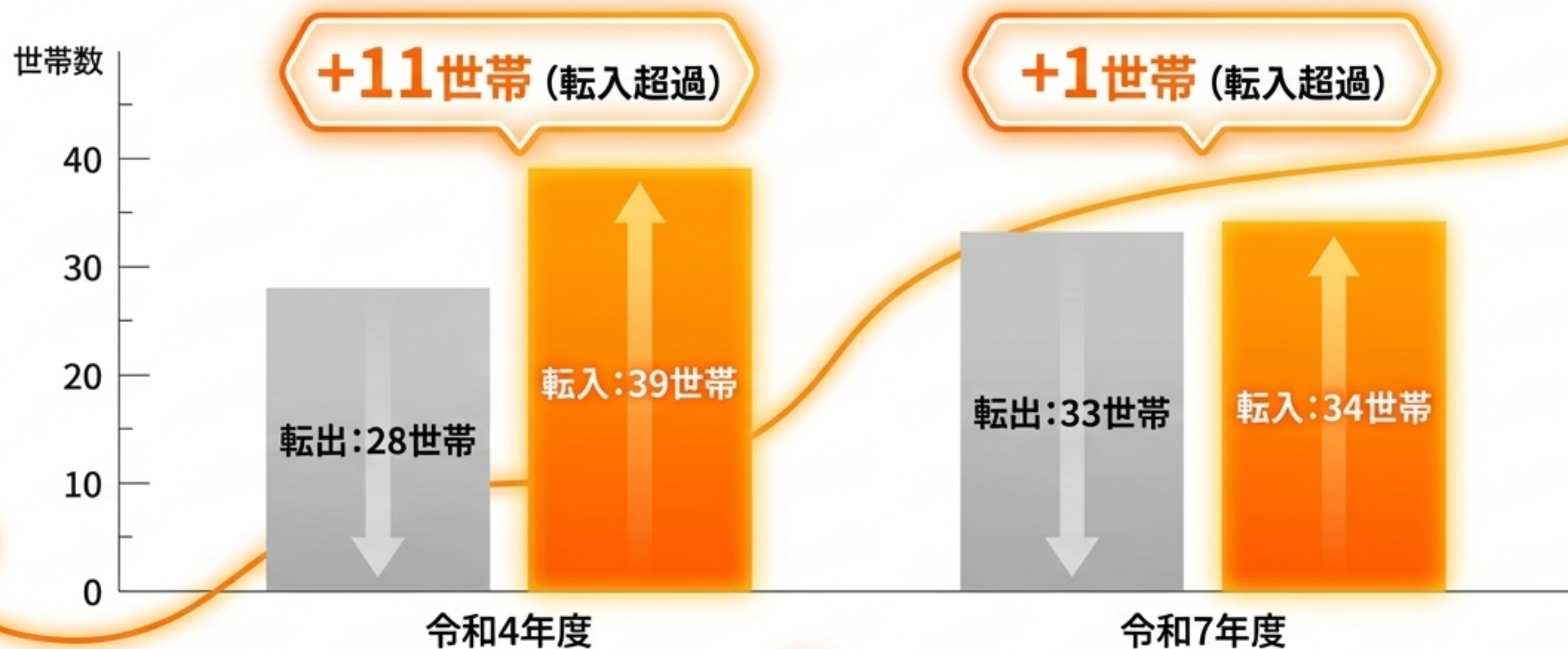
単なる金銭補助ではなく、「現物支給」によって全家庭の負担を平準化し、子どもたちの健康も守る合理的なアプローチ。

注目施策③：負担軽減と地域経済を回す「一石二鳥」のエコシステム



教育への投資を、地域産業への投資へと二重機能化させる巧みな制度設計。

成果：データが証明した「選ばれる街」への変化



手厚く、切れ目のない経済支援と移住定住策（TVCM等のプロモーションを含む）の連動により、「子育て世帯を市外から呼び込む・留まらせる」ことには確かな成果が出ている。

パラドックス（立ちはだかる壁）：手厚い支援でも止まらない少子化

The Core Contradiction



子育て世帯は集まっている
(転入超過)



子どもの数は増えていない
(出生数激減)

Data Recap

年間4億円規模の投資を継続しても、出生数は139人(H28)から71人(R7)へ約半減。

Murayama City's Analysis

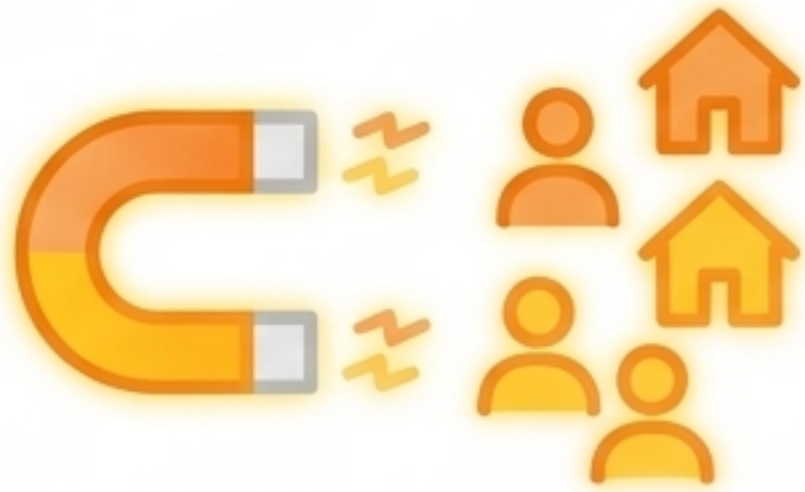
若年層の進学・就職に伴う市外流出

将来の収入への不安、
結婚・出産に対する価値観の変化

※「出生率低下の要因について、明確な結論には至っていない」という正直な現状

洞察：「経済的支援」の限界と真実

【社会動態（人の移動）】＝ 成功（転入超過）



他市町村との「パイの奪い合い」には勝てる。
すでに子どもがいる世帯にとって、経済的
メリットは移住・定住の強い動機になる。

【自然動態（出生数）】＝ 課題（減少継続）



「子どもをもう一人産もう」「結婚しよう」
という根本的な意思決定は、行政の給付金
だけでは変えられない。

「子育て世帯を呼び込むこと」と「少子化そのものを食い止めること」は、似て非なる課題である。
雇用環境、若者の所得水準、働き方など、より複雑な社会構造の改革が不可避である。

平川市への政策的示唆（１）：支援の「体系化」と「負担の排除」

1 子育て支援政策の「体系化」

現状

平川市でも給食費無償化や保育料軽減など個別の優れた事業は存在している。

アクション

村山市のように、結婚～住宅取得までを「一つの線」でつなぐパッケージとして再構築・発信し、市民の安心感を最大化する。



2 入学時の経済的・身体的負担の軽減

インスピレーション

ランドセルに代わる「軽量通学かばん」と「入学時商品券」。

アクション

児童の健康（重さからの解放）と、家計の初期負担ゼロを両立する施策の導入検討。



平川市への政策的示唆（２）：子育ての「公平性」と「データ検証」

3 「家庭保育世帯」への支援 （公平性の担保）

インスピレーション

保育施設に預けない選択をした家庭への月額支援。

アクション

子育ての多様な選択肢を尊重し、施設利用の有無による行政支援の格差・不公平感を是正する制度設計。



4 人口減少対策の 「効果検証」の徹底

インスピレーション

出生数減の要因分析の難しさ。

アクション

「事業をやったから成果だ」で終わらせない。出生数、若年女性人口、婚姻件数などのデータを追跡し、政策マネジメント（PDCA）を確立する。



最大のメッセージ:「人口減少」を前提とした地域社会への適応

- 出生数の増加を目指す努力は決して諦めない。
- しかし、「当面の人口減少は避けられない」という現実も直視する。



単に人口を増やすことだけを目的としない。

- 人口が減っても、市民が豊かに、安心して暮らし続けられるまちづくり。
- 子育て支援と並行して、「学校再編」「公共施設の適正配置」「地域交通」「医療体制」を一体的にデザインし直す覚悟。

結びに：平川市の「次の一手」を共に創る

村山市への視察は、単なる他市の成功事例の模倣ではなく、
「手厚い支援の限界」という地方共通の難しさを共有する
極めて有意義なものでした。

平川市は、ばらまきではない「賢い投資」と、
「人口が減っても幸せな街」の構築へ舵を切らねばなりません。

この視察から得た知見を武器に、平川市の実情に即した
「持続可能な未来の青写真」を、市民の皆様と共に形にしていきます。